



JAPAN PRIZE

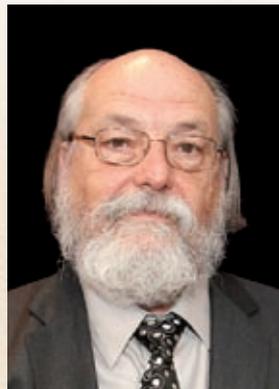
2011年(第27回)日本国際賞 日米の4博士が受賞 日本および米国で贈賞式を実施

「情報・通信」分野

「生命科学・医学」分野



デニス・リッチー博士
ベル研究所特別名誉技師
米国



ケン・トンプソン博士
グーグル社特別技師
米国



岸本 忠三博士
大阪大学名誉教授、元総長
日本



平野 俊夫博士
大阪大学教授、前医学系研究科長・医学部長
日本

この度の東日本大震災により被災されました方々に、心よりお見舞い申し上げます。

公益財団法人 国際科学技術財団は世界の科学技術の進歩に大きく寄与し、人類の平和と繁栄に著しく貢献した人に日本国際賞(ジャンプライズ)をもって顕彰しています。2011年の受賞者は『情報・通信』分野でUNIXオペレーティングシステムを開発したデニス・リッチー博士とケン・トンプソン博士、『生命科学・医学』分野ではインターロイキン6の発見から疾患治療への応用に貢献した岸本忠三博士、平野俊夫博士が選ばれました。

1月25日の受賞者発表記者会見の後、4月20日、東京で開催予定の日本国際賞授賞式・祝宴に向けて鋭意準備を進めていたところに3月11日の東日本大震災が発生。諸般の状況に鑑み、授賞式・祝宴を中心とする全ての行事を中止しました。一方で、本年の受賞者の皆様に賞をお届けするために、関係先のご協力を得て、各地で贈賞の場を設けることができました。

日本国際賞 / Japan Prize

「日本国際賞」は、全世界の科学技術者を対象とし、独創的で飛躍的な成果を挙げ、科学技術の進歩に大きく寄与し、もって人類の平和と繁栄に著しく貢献したと認められる人に授与されます。

本賞は、科学技術の全分野を対象とし、科学技術の動向等を勘案して、毎年2つの分野を授賞対象分野として指定します。原則として各分野1件、1人に対して授与され、受賞者には賞状、賞牌及び賞金5,000万円(各分野)が贈られます。

UNIXオペレーティングシステムの開発



デニス・リッチー博士

1941年9月9日生まれ
ベル研究所特別名誉技師

受賞のことば

日本国際賞という大変に荣誉ある賞の受賞にあたり、伊藤会長、吉川理事長を始め、国際科学技術財団の役員の方々、スタッフの方々に心より御礼申し上げます。また、私を支えてくれた家族の愛に感謝します。

そして特に、私の同僚であり尊敬する友人のケン・トンプソン氏に感謝したいと思います。今回、同氏とともに受賞することになりましたが、氏の功績の方がよりこの賞に相応しいと思っております。

私が40年以上勤務しましたベル研究所にも触れておきたいと思います。ベル研究所は何度も親会社が変わり、場所も変わるなどしましたが、終始安定した研究体制を維持してきました。テクノロジーの発展にともない、研究分野も変化しましたが、幸いなことに、ソフトウェアは常に重要不可欠であり続け、そのことが私のかくも長い研究生生活を可能にしました。

私は研究者人生を通じて、いつも素晴らしい同僚たちに恵まれてきました。UNIXにおける新鮮なアイデアの多くは、一緒に仕事をしていた、そのような同僚たちによって生み出されたものです。この荣誉を戴いたことに、今一度感謝申し上げます。



ケン・トンプソン博士

1943年2月4日生まれ
グーグル社特別技師

受賞のことば

科学技術による社会への貢献に対して与えられる、世界で最も重要な賞である日本国際賞を受賞できますことは、私にとってこの上なく名誉なことと存じております。

科学技術による社会への貢献を語るとき、そこにコンピュータの分野が含まれることは、まことに相応しいことであると考えております。おそらく、他のどのような分野も、人間の生活にこれほど大きな貢献をもたらしたことはなかったと言えのではないのでしょうか。

私は今回の受賞について、二つの相反する感情を抱かずにはおれません。ひとつは、歴代の受賞者と肩を並べるに至ったという高揚感であり、そしてもうひとつは、受賞者の方々を見たときに、果たして、自分はそのようなレベルに達しているのだろうかという思いです。

デニス・リッチー氏とともに情報・通信分野で日本国際賞を受賞し、誠に光栄に存じます。歴代の著名な受賞者の方々とともに名を連ねることとなり、身の引き締まる思いです。

授賞対象分野「生命科学・医学」

インターロイキン6の発見から疾患治療への応用



岸本 忠三博士

1939年5月7日生まれ
大阪大学名誉教授、元総長

受賞のことば

1970年代初めBリンパ球に抗体を作らせることを指令する機能を持つものとして発見した分子が現在IL-6と呼ばれる分子であり、この分子が種々の病気の発症に深くかかわっている分子であったことは我々にとって非常に幸運なことでした。

IL-6分子とその受容体の構造や、細胞内へのシグナル伝達についての我々の一連の基礎的研究成果がもとになって、現在関節リウマチをはじめとするいくつかの炎症性疾患の治療に効果を発揮する我が国初の抗体医薬が開発され、世界90カ国で承認され広く使われるようになりました。

「役に立つ」ということを考えなくても真髄をついた医学の研究は必ず病気の診断や治療に役立つことにつながるものだということが私の信念でしたが、我々のIL-6の研究が「10年後には関節リウマチのため車いす生活を余儀なくされる人がいなくなる」と言われるように多くの人を病苦から救うことにつながったことを大変嬉しく思います。



平野 俊夫博士

1947年4月17日生まれ
大阪大学教授、前医学系研究科長・医学部長

受賞のことば

物事の本質を極めることの重要性を信じ、目の前の山を一つ一つ登り続けて参りました。

この基礎的な研究により、インターロイキン6の発見という幸運に恵まれ、関節リウマチ等の治療薬の開発への道が開かれました。

39年前に医学部を卒業した時には想像すら出来ないことでした。引き続き研究を重ね、次代を担う若い研究者を育てることによって、社会に貢献できるよう今後も精進する覚悟でございます。

日本が生きる道は、基礎科学を重んじ、科学技術の発展に貢献し、もって世界の人類の平和と繁栄に貢献することだと信じております。この度の受賞が若い人達に、将来に対する夢を与えるとともに、基礎科学の重要性を再度認識する機会になることを祈っております。

記者会見



2011年1月25日、ホテルニューオータニ「麗の間」において、2011年（第27回）日本国際賞の受賞者発表記者会見が開催されました。冒頭、吉川理事長から受賞者が発表され、続いて、小宮山審査委員長による審査経過についての報告、その後「情報・通信」分野は宮原審査部会長から、また「生命科学・医学」分野は浅島審査部会長から、それぞれ授賞理由が紹介されました。



吉川理事長



小宮山審査委員長



宮原審査部会長



浅島審査部会長



記者会見風景



リッチー博士はビデオで参加

贈賞式(日本)



■ 伊藤会長から賞状を受け取る岸本博士



■ 吉川理事長と握手をされる平野博士

開催日時：4月20日(水) 17時～20時30分

場 所：ホテルニューオータニ大阪
「サンセットの間」

主な出席者：国際科学技術財団
伊藤会長夫妻、吉川理事長夫妻



■ 懇親会の様子



■ 前列右より：岸本博士ご夫妻、平野博士ご夫妻 後列右より：伊藤会長夫妻、吉川理事長夫妻

贈賞式 (米国)



吉川理事長と握手をされるトンプソン博士



吉川理事長と握手をされるリッチー博士

開催日時：5月17日(火) 16時～20時

場所：カリフォルニア州マウンテンビュー市
グーグル本社ビル講堂

主な出席者：ヴィントン・サーフ副社長 (2008年日本国際賞受賞者)
ビル・コーラン副社長 他幹部
グーグル社員 合計約160名
在サンフランシスコ総領事館 原田首席領事
国際科学技術財団 吉川理事長夫妻、榛葉専務理事

開催日時：5月19日(木) 10時～14時

場所：ニュージャージー州マレーヒル市
ベル研究所本社講堂

主な出席者：ヴジェオン・キム社長 他ベル研究所幹部
ベル研究所職員、ベル研究所OB会メンバー
合計約360名
在ニューヨーク総領事館 廣木総領事
国際科学技術財団 吉川理事長夫妻、榛葉専務理事



左よりサーフ副社長、コーラン副社長、トンプソン博士ご夫妻、
吉川理事長夫妻



左より吉川理事長夫妻、リッチー博士、キム社長



コンピュータ歴史博物館にて



インタビューを受けるリッチー博士

広報活動

2010年10月1日、国際科学技術財団は、内閣総理大臣より公益財団法人としての認定を受け、「公益財団法人国際科学技術財団」として設立登記を行いました。

また、これを機に英文名称を「The Japan Prize Foundation」と改称し、海外での認知度向上に向けて広告や現地マスコミへの情報発信など積極的な広報活動に取り組んでいます。



Science 2月号



Science 6月号

国際科学技術財団とは

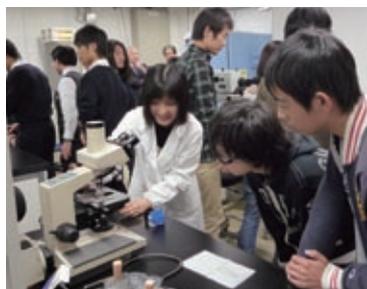
国際科学技術財団は、日本国際賞 (JAPAN PRIZE) による顕彰事業のほかに、学生から一般の方々を対象とした「やさしい科学技術セミナー」の開催や若手科学者育成のための研究助成事業など科学技術の更なる発展に貢献するための活動を行っています。

研究助成事業



日本国際賞の授賞対象と同じ分野で研究する35歳未満の若手科学者を対象に、独創的で発展性のある研究に対し、助成を行っています。将来を嘱望される若手科学者の研究活動を支援・奨励することにより、科学技術の更なる進歩とともに、それによって人類の平和と繁栄がもたらされることを期待しています。

やさしい 科学技術セミナー



私たちの生活に関わりのある、様々な分野の科学技術について、その分野の専門家にやさしく解説していただきます。講演ばかりでなく実験室の見学なども行われ、学生から一般の方を対象に年10回各地で開催しています。

ストックホルム 国際青年科学セミナー



ノーベル財団の協力ですウェーデン青年科学者連盟が毎年ノーベル賞週間にストックホルムにおいて開催する「ストックホルム国際青年科学セミナー (SIYSS)」に1987年以降、毎年2名の学生を派遣し、世界各国から派遣された若手科学者との国際交流の機会を提供しています。



JAPAN PRIZE

2012年(第28回)日本国際賞 授賞対象分野

2012年(第28回)日本国際賞は「環境、エネルギー、社会基盤」および「健康、医療技術」です。

世界各国の推薦人から数多くの受賞候補者の推薦書が寄せられ、財団に設置された日本国際賞審査委員会による厳正な審査が行われています。受賞者の発表は2012年1月、授賞式は同年4月に予定されています。

領域Ⅰ(数学系、物理学系、化学系、工学系) 授賞対象分野:「環境、エネルギー、社会基盤」

背景、選択理由

近年、人類の活動による資源およびエネルギーの消費拡大、環境破壊などが看過できないレベルに至ったと認識されるようになり、世界規模での対策協議が始まっています。そこでは、地球環境に大きな影響力を持つエネルギー生産や利用、物質生産、水資源対策、都市開発、運輸・交通などに関わる基盤技術の革新が改めて強く求められています。特に、生活や産業などにおける省エネルギーの推進、代替エネルギー技術の開発、資源や環境の制約の下での新しい生産技術、さらには防災安全対策など社会基盤に関する科学的発見と技術の革新が重要な課題となっています。

対象とする業績

2012年の日本国際賞は、「環境、エネルギー、社会基盤」の分野において、飛躍的な科学技術の発展をもたらし、環境対策技術やエネルギー技術、環境調和型の生産技術や社会基盤形成技術などの創造・革新・普及を通じて、地球環境の改善に寄与するなど、社会に大きく貢献する業績を対象とします。

領域Ⅱ(生物学系、農学系、医学系) 授賞対象分野:「健康、医療技術」

背景、選択理由

過去数十年間、画像診断機器、医療関連の情報化技術、さらには遺伝子研究を基にした医療診断技術、生化学的診断手法などの科学技術の進展により、疾患や身体機能の診断精度は飛躍的に進歩しました。こうした診断技術の進歩に加え、低侵襲手術、放射線治療技術などの治療技術の革新は、多くの疾患の治癒率の向上をもたらし人類の福祉に大きく貢献しています。さらに疾患の早期発見のための診断技術の一層の進展、画期的創薬や再生医療など新しい医療分野の発展が期待されています。また、高齢化社会を迎え、健康の維持・増進や疾病予防も社会の活力維持にとって重要となっており、このような分野における科学の進展と技術開発も大いに期待されるところです。

対象とする業績

2012年の日本国際賞は、「健康、医療技術」の分野において、飛躍的な科学技術の発展をもたらし、新しい診断技術や治療技術などの医療技術の創造・普及さらには健康維持・増進や疾病予防に寄与するなど、社会に大きく貢献する業績を対象とします。

今後の予定

授賞対象分野は基本的に3年の周期で循環します。

毎年、日本国際賞分野検討委員会から向こう3年間の授賞対象分野が発表されます。

「物理、化学、工学」領域

授賞対象年(回)	授賞対象分野
2013年(第29回)	物質、材料、生産
2014年(第30回)	エレクトロニクス、情報、通信
2015年(第31回)	資源、エネルギー、社会基盤

「生命、農学、医学」領域

授賞対象年(回)	授賞対象分野
2013年(第29回)	生物生産、生命環境
2014年(第30回)	生命科学
2015年(第31回)	医学、薬学